



# IUFRO-J NEWS

No. 15 (1981. 6)

## 大会準備日程表

	IUFRO 本部・事務局	組 織 委 員 会			
		事 務 局	総務部会	研究部会	EXC 部会
6月	IUFRO ニュース No. 32 発行 (暫定 プログラム掲載)	プログラム原稿締 切り (15日) 基金委員会	会場整備・登録等 KICH 現地打合せ 事前登録締切り (30日)	KICH 現地打合せ プロシーディング ス原稿締切り ローカルコーディネーター会議 通訳者用資料依頼	EXC ブロック会議
7月		プログラム発注 皇太子・妃両殿下 行啓下見	コンgresレポート 編集委員会設置	ポスター割付け	EXC 現地調査
8月	31日: リーゼ IUFRO 会長来日 (予定)	組織委・運営委・ 基金委合同会議 プログラム納品 大会資料袋詰め 大会事務局(京都) 開設 (31日: 予定)	会場(備品・什器 を含む) 整備確認 大会運営マニ ュアル完成	通訳者用資料完成 プロシーディング ス納品 研究集会運営マ ニュアル完成	EXC 現地説明資 料完成 EXC 資料袋詰め
9月	2日: 理事来日 3日~4日: 理事の京都周辺視察 5日: 理事会 (パレスサイドホテル) 6日: 評議員会 (KICH) 登録 7日~12日: IUFRO 第17回世界大会		オリエンテーション・リハーサル (5日~6日) コンgresレポート編集開始	EXC 参加者最終編成 (9月9日: 予定) 13日 } 現地検討会議 17日 } (EXC)	
10月		組織委・運営委・募 金委合同会議 日本学術振興会・日 本万国博覧会記念協 会へ報告書提出	コンgresレポー ト発注 (11月中旬 発行)		

### 登録をお急ぎ下さい

第17回ニフロ世界大会まで3か月足らずとなりました。前号でお知らせしたように、事前登録は一応6月30日で締め切ります。もちろんその後も登録できますが、準備の都合で成可く事前に参加者数を把握したいと思っておりますので、参加を予定されている方は、至急第2回アナウンスメントに折込んである登録用紙でお申し込み下さい。なお宿泊について、アナウンスメントにあげられているA~Dクラスのホテルを希望されない方は、成可く早く各自で適当な宿をおとり下さい。

エクスカージョン部会からのお知らせ

絶好の機会だから、せめてエクスカージョンをつうじ、外国人と意見をかわし、交流をはかりたいとするご要望が多く寄せられています。これを受けてエクスカージョン部会では日本人のエクスカージョンへの参加方法を次のようにきめました。エクスカージョンは元来外国人を主体と考えておりますので、満席となった場合、いきおい外国人を優先し、日本の参加希望者はご遠慮願わねばならないこととなりますが、この点あらかじめご了承下さい。

どのコースも大会終了後の9月13日京都を出発し、各地を巡り、東京に到着して解散することになっておりま

すが、この全日程の参加を希望される場合、第2回アナウンスメントにコース別に示しております所定のエクスカージョン参加費を納入して下さい。

また、第1コース(東北)、第2、第5コース(九州)、第4コース(北海道)において、東北、九州、北海道内の現地だけで参加を希望される場合、京都から現地、現地から東京までの交通費を除いた交通費、宿泊料、昼食費などの実費を納入下さい。

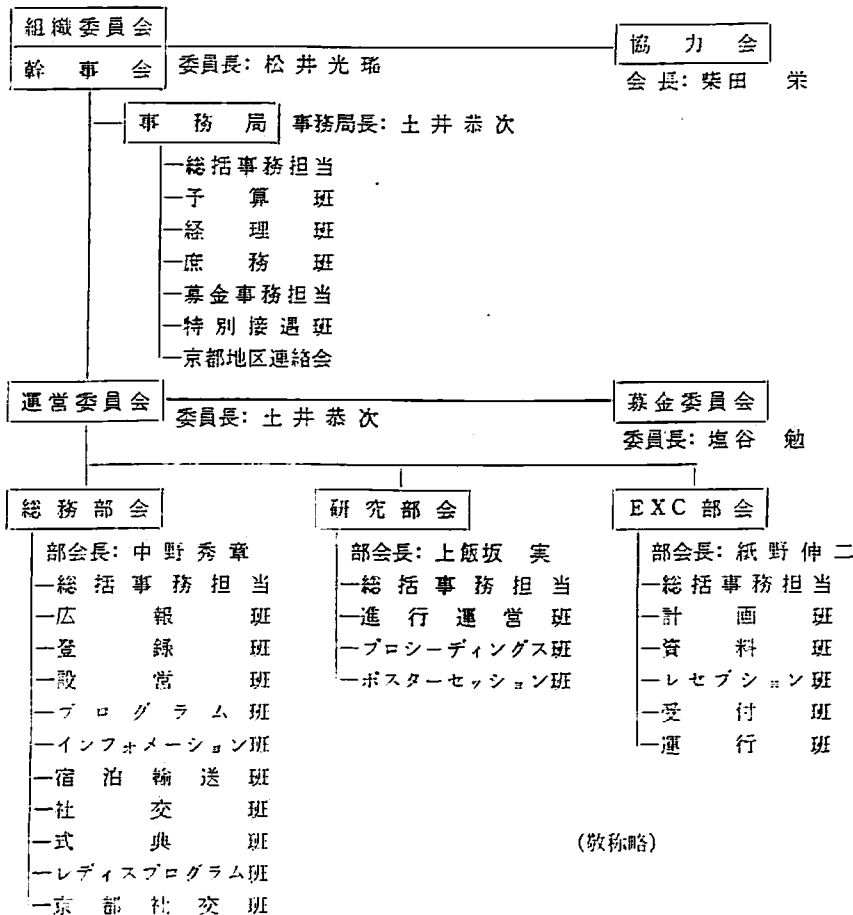
ただし、特定の2、3の現地ポイントのみに参加を希望される場合、交通、食事、宿泊などご自分で用意いただいたうえでご参加下さい。ポイントの説明資料は用意しております。勿論、参加費は一切不要です。

これらについて不明の点は事務局にお問合せ下さい。

大会組織を強化

本誌10号に大会準備実行組織図を載せ、同11号では総務・研究両部会の班編成を、また12号では事務局の当時の体制をご紹介しましたが、その後準備の進展にし

たがい、EXC部会も班編成を行なうとともにかなりの改編を行ないましたので、改めて全体の組織図をご紹介します。



## 大会およびエクスカージョン参加者申込状況 (5月28日現在)

国名	大会参加者			エクスカージョン参加者																													
	会 員	同 伴 者	計	会 員	同 伴 者	計	コース No.																										
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14													
日本	340	11	351	61	1	62	4	2	4	2	5	6	13	4	5	3	4	1	4	4													
アメリカ	42	23	65	22	15	37	2	2	1		3	2	1	4	3		3	3	2	2	1	1	1	1	2								
ノルウェー	28	10	38	28	10	38	1	1	1	2	4	2	1	3	7	3	3	2	2		1	1		1	1								
フィンランド	24	11	35	20	9	29	2	1	1	1	2	1	1		5	2	2	2	4		1	1											
オーストラリア	16	10	26	15	10	25		1	1	1	1	1	1			2	1	2	2	1	13	12	2										
スウェーデン	20	3	23	18	3	21	2		1	1	3	1	2		2		5				1	1											
カナダ	14	5	19	12	5	17	1				4	2	1		2	2	2					1		1	1								
西ドイツ	19	10	29	13	8	21		1	1		1			1	1	3	1							6	6								
南アフリカ	7	6	13	7	6	13		1	1		1	1			2	1	3	3															
イギリス	8	1	9	5		5		1			1	2					1																
韓国	6	0	6	5		5	2				2													1									
イラン	3	2	5																														
オランダ	8	2	10	6	2	8		1			1			2	1	1	1	1															
ニュージーランド	4	2	6	4	2	6								2	2		1	1															
ボリビア	2	2	4	2	2	4	2	2																									
ブラジル	3	2	5	3	2	5	2	2														1											
フランス	2	2	4	1	1	2											1	1															
デンマーク	2	1	3	2	1	3	1	1								1																	
パキスタン	1	1	2	1	1	2								1	1																		
マレーシア	1	1	2	1	1	2		1	1																								
ベルギー	2	1	3	1	1	2				1	1																						
オーストリア	1	1	2	1	1	2										1	1																
イタリア	2	1	3	2	1	3				1						1	1																
スイス	4	3	7	3	4	7								1	2	1	1			1	1												
インドネシア	1		1																														
ポルトガル	1		1																														
コスタリカ	1		1	1		1	1																										
セネガル	1		1	1		1	1																										
イエメン	1		1	1		1	1																										
アップーホルタ	1	1	2	1	1	2					1	1																					
ケニヤ	2	1	3	2	1	3	1	1								1																	
トリニダードトバゴ	1	1	2	1	1	2				1	1																						
バングラデッシュ	1		1	1		1																											
タイ	1		1	1		1																											
ガーナ	1		1	1		1						1																					
タンザニア	2		2	1		1								1																			
チェコスロバキア	1		1																														
ユーゴスラビア	3		3																														
アイボリーコースト	1	1	2																														
計	578	115	693	244	89	333	23	10	12	5	10	3	25	8	21	4	11	12	3	28	12	28	13	26	10	8	3	9	4	9	3	14	10
							33		17		13		33		25		12		23		40		41		36		11		13		12		24

(注) コース別の左欄は会員, 右欄は同伴者。

## 研究集会の準備着々進む

部会全体集会、部会間合同集会、大会分科会に大別される研究集会は、9月7日午後から京都国際会館の約40の会場で半日単位で行なわれます。これらの内容を掲載したプログラムを印刷し、7月はじめ頃前もってお配りする予定でしたが、招待論文についての情報が遅れていることなどの理由で予定を変更し、4月末時点でわかっていた情報をもりこんだ暫定的なプログラムをユフロニュース 32号に掲載することになりました。この32号は、6月中旬頃ユフロ本部から直接各メンバー機関に送られるはずですが、なお最終的なプログラムは、遅くとも7月はじめまでに編集を終える予定で、大会々場で登録される際にお渡しすることになります。

ご参考までに各部会で予定している招待論文の数、申込みのあったポスターによる発表論文の数は次のとおりです。(5月末現在)

	招待論文数	ポスター発表論文数
第1部会	61	52
第2部会	103	65
第3部会	36	21
第4部会	62	21
第5部会	29	70
第6部会	47	11

次に研究集会の日程を会場別にまとめた表をご紹介します。この日程は現在各部会長に確認中ですが、ほぼこの日程に従って実行されるものと考えています。大会分科会の内容については前号と対照して下さい。

### ★部会および合同集会★

各部会の全体集会、第1～4部会合同集会および特別な集会について、これまでに分っている内容をご紹介しますと次のとおりです。

#### 第1部会 9月9日 午前

招待論文として千葉宗男(岩大):“明日の人類のための造林”を予定し、そのあと、過去5年間の活動の総括、議論問題、これからの活動予定が討議されました。

#### 第2部会 9月8日 午前

部会長 R. Z. Callahan(米)から過去5年間の活動、組織問題がのべられ、それを中心に討議が予定されています。

#### 第3部会 9月8日 午後

招待論文として、

H. Steinlin(西独), U. Sundberg(スウェーデン): 明日の森林のための森林作業研究。

P. Koch(米): 小径木混交林の地上バイオマスのバブル以外の利用。

の2篇が予定されています。

#### 第4部会 9月9日 午前, 11日 午前

“地域共有林および小規模私有林に関連した諸問題を識別・評価する方法”というテーマで、下記の2篇の招待論文によって問題提起を行ない、それらをうけて部会傘下5グループから意見がだされ、総合討議が行なわれる予定である。

R. Plochmann(西独): 私的目標と公共的目標にそなうための小私有林。

J. E. M. Arnold(米): 地域開発のための林業一問題提起。

#### 第5部会 9月8日 午前

テーマ: 製材品の等級区分

招待論文

##### 1. 現行の欠点による等級区分の限界

B. Madsen(カナダ): 北米における等級区分の慣行と等級区分材の試験。

B. Thunell(スウェーデン): 北欧とECEにおける針葉樹材の等級区分。

##### 2. B. A. Bendtsen, R. L. Youngs(米): 木材の非破壊応力等級区分, その概要。

##### 3. R. H. Leicester(オーストラリア): 構造材の等級区分の将来。

9月11日 午前

テーマ: 将来の活動

招待論文

R. L. Youngs(米): 林産研究一必要性と展望。

#### 第6部会

G. H. Möller(米), H. Heytze(オランダ):

林業における技術移転: 考え方と問題点。

世銀・FAO: 西暦2,000年における国際的林業研究一ニーズと戦略。

S. Schrader(西独): 情報科学技術の進展をふまえた林業技術者のための研究成果の普及と交換。

#### 第1, 2, 3, 4部会合同集会

“林業にたいする林業自身のインパクト”というテーマのもとに、次のような4題の話題提供を予定し、これらを中心に討議を行なうことになっている。

S. P. Gessel(米): 保続的森林生産にたいするインパクト。

E. Donaubaue (オーストリア): 林業にたいする  
病害虫。

W. Heij, N. A. Leek (オランダ): 土壌および植生  
におよぼす森林作業のインパクト。

R. Plochmann (西独): 社会経済的視点からみた  
林業自身にたいする 林業のインパ  
クト。

### ★ 熱帯造林特別シンポジウム ★

第2部会の生理グループが発意した熱帯造林について  
のシンポジウムについて、第1部会の了解がえられた  
ので、組織委員会がとりあげてバックアップすること  
になり、座長、話題提供者をさがしてきたが、次のよう  
な内容がかたまった。

第1セッション 9月7日 午後

“熱帯における森林資源の現状と造林上の諸問題”

アジア(雨緑林): T. Yingvanasiri (タイ)

アジア(熱帯降雨林): Salleh b. M. Nor (マレー  
シア)

アフリカ: R. Olembo (ケニア)

中南米: P. Galvão (ブラジル)

座長: F. S. Pollisco (フィリピン)

第2セッション 9月8日 午後

“熱帯造林の諸問題にたいする生態生理的アプロ  
ーチ”

熱帯降雨林における光条件と苗木の生長: 佐々木  
恵彦・森徳典(日本), F. S. P. Ng (マレー  
シア)

分類学的・生態生理的視点からみたペルー北部海  
岸地方のアルガラボ:

R. Ferreyra (ペルー)

熱帯樹木の水分問題:

T. M. Hinckley, P. B. Reich (米),

森川 靖(日本)

熱帯降雨林の森林と立地条件:

大角察夫(日本), S. K. Teoh (マレーシ  
ア)

北部タイに植栽されているケシヤマツの針葉の特  
性と成分の遺伝変異

B. Thaiutsa (タイ)

座長: T. T. Kozlowski (米)

### ★ 竹の生産と利用に関する特別シンポジウム ★

研究集会編成開始当時から、リーゼ会長の強い要請もあ

り、京大本研の樋口教授が中心となって第5部会の一環  
として竹についてのシンポジウムが精力的に編成されて  
きた。これも最近ほぼ内容がかたまってきたのでご紹介す  
る。

第1セッション 9月7日 午後

〈招待論文〉

日本におけるタケ産業—現状と将来:

上田弘一郎(日本)

を中心に、竹の生産に関する4篇のボランタリー  
・ペーパーが予定されている。

座長: 樋口隆昌(日本)

第2セッション 9月8日 午後

〈招待論文〉

バングラデッシュにおける竹の生産と利用につい  
ての研究と開発:

M. O. Ali (バングラデッシュ)

を中心に、竹の利用に関する4篇のボランタリー  
・ペーパーが予定されている。

座長: M. O. Ali (バングラデッシュ)

ポスター・セッション 9月11日 午後

22篇の中込みがある。

### ★ IUFRO/MAB 合同集会 ★

10周年を迎えるユネスコの“人間と生物圏”事業計  
画が、ユフロと共催で次のような2つのテーマで合同シ  
ンポジウムを計画しています。

1. “都市近郊林研究—新しい概念と考え方”
2. “熱帯林の社会的価値—認知と心構え”

まだ確定していないが、関連分野の日程の都合で、第  
2課題を9、10両日の午後、第1課題を11日に行なって  
ほしい旨の提案を申入れ中です。両テーマともそれぞれ  
3篇の招待論文が予定されています。

### ★ 木材科学に関連した集会 ★

次の2つの会議が、大会期間中いずれも京大会館で開  
催されます。

国際木材解剖学会(International Association of  
Wood Anatomists): 9月8日18時~22時。同協会の50  
周年を記念した集りで、京都大学原田浩教授が世話役を  
されています。

国際木材科学アカデミー(International Academy of  
Wood Science): 9月10日18時~22時。詳細は近く公  
表されるはずで。

## 京都国際会館会場別研究集会日程表

会場	Sept. 7 (MON)	Sept. 8 (TUE)		Sept. 9 (WED)		Sept. 10 (THU)		Sept. 11 (FRI)		
	14:30 -17:00	10:00 -12:30	14:30 -17:00	10:00 -12:30	14:30 -17:00	10:00 -12:30	14:30 -17:00	10:00 -12:30	14:30 -17:00	
M. H.	(6)	(2)	(3)	(1)		(1)(2)(3)(4)	10:00~ 3.1/(3)	(4)		
A	5.3A	(5)	5.3A	(4)		5.1B	I. C.	(5)	(6)	
B1	2.3, 4	3.6	1.6 2.1	2.3, 4			2.4	2.4	2.2	
B2	1.1	1.5	1.1	2.4		1.	1.5	1.7	1.2	
C1	1.4	1.3	1.2	§§		4.	1.4		1.7	
C2	1.6 2.1	3.7	2.4	2.1		2.	2.1	2.1	2.1	
D	1.2	1.6	1.4	3.6 5.3B		3.	1.3	1.6	1.6	
E		L. P.	L. P.							
F	3.1	1.1	1.3	3.7		5.02	4.4	3.	3.2	
G	5.1	§§	5.1	5.02		5.1	5.1	2.4	5.1	
H	2.3	6.3	6.3	6.3		6.3	6.3	6.3	5.02	
I	3.2	3.2	1.5	3.1	IUFRO/ MAB		IUFRO/ MAB	IUFRO/ MAB	IUFRO/ MAB	
J	4.1	4.2	4.2	6.2-1		4.4	4.1	3.	3.6 5.3B	
K	5.2	3.3	5.2			5.2	5.2	3.	5.2	
104	2.2		2.2				IUSF	2.2	2.3	
509	4.2, 4	4.1, 2+ S6.2	4.1			4.2+ S6.02 S6.05	4.2		4.2	
552	3.3		2.3				5.02	5.02		
553	P2		P2	P5		P6	P2	P1	P5	
554	P1		P2	P5			P6	P3	P4	
555	P1		P2	P5			P6	P3	P4	
556	P1		P2	P5			P6	P3	P4	
557			ポスター・セッション準備室							
558		6.4A	6.4A	6.4A			6.4A	6.4B	6.4	
656	予備	予備	予備				予備	予備	予備	
657	予備	予備	予備				予備	予備	予備	
658	予備	予備	予備				予備	予備	予備	
659	1.	1.	1.					1.	1.3	
660	2.1		2.	2.			1.7	2.1	2.	
661	2.		2.2	2.			2.2	2.	2.	
662	2.		2.5	2.			2.3	2.3	2.5	
663	2.5		2.5	2.3			2.	2.4	2.4	
664	予備		予備	予備			予備	予備	予備	
665	3.4			3.4			3.4	3.	3.3	
666	3.5			3.5			3.5	3.	3.	
667	4.3	4.3	4.3			4.	4.3		4.3	
668	4.3	4.4	4.4			4.	4.		4.4	
669	4.5	4.5	4.5			4.	4.5		4.3	
670	5.4A		5.4A	5.4A			5.4B	5.4B	5.4B	
672			5.02				5.3B	5.3B		
673		6.1	6.1	6.1			6.1	6.1		
674		6.2-2	6.2-1	6.2-2			6.2-1	6.2-2		
675		6.5*	6.5*	6.5*			6.5*	6.5*		

## 会場別研究集会日程表の説明

- (1)~(6) は各部会の全体集会  
9月10日午前の(1), (2), (3), (4) は第1~4部会の合同集会です。
- 1.1, 1.2, ..., 2.1, 2.2, ...6.4 は大会分科会番号で、左側の1, 2, ...6, は部会番号を示しています。部会番号だけを記入してあるものは、会議内容未定。
- L. P. はレディス・プログラムです。
- P1~P6 は各部会のポスター・セッションです。
- IUFRO/MAB はユフロと、ユネスコ「人間と生物圏」事業計画の合同集会で、9月9日午後、10日午後は熱帯造林、9月11日は都市近郊林業がテーマとなる予定です。
- IUSF は International Union of Societies of Foresters の集会でテーマは“第3世界における林業専門職の成長に果たす IUSF の役割”とされています。
- SS 印は9月7日午後の第6部会全体集会で WB/FAO 代表が提出する論文(別記)についての継続討議会場(予定)です。
- I. C. はユフロ評議員会々場です。

---

 ハーフディ・ツアー
 

---

前号でご紹介したように、9月9日(水)の午後は中間的な息抜きをかねて京都市郊外の林業地などにハーフディ・ツアーを計画し、そのあと比叡山に設置した会場に集合して懇親会を催すことになりました。ツアーは下記のような3コースとし、それぞれ定員の範囲で運営します。なお、大変申し訳ありませんが海外からの参加者を優先させていただきますので予めご了承下さい。定員に達して参加できなかった方々やご都合で懇親会だけに参加される方々のために、市内の指定された場所および KICHI から比叡山の会場へのバスを運行する予定です。

## [各コースの経路]

- 京大上賀茂試験地(海外の松、竹類の植栽)→延暦寺→(比叡山)→比叡山ホテル  
(定員、申込順に 200 名)
- 北山林業(装飾用柱生産の最も代表的な集約林業)→延暦寺→(比叡山)→比叡山ホテル  
(定員、申込順に 100 名)
- 竹林公園→延暦寺→(比叡山)→比叡山ホテル  
(定員、申込順に 200 名)

## ★組織委員会・運営委員会委員の交代

去る5月27日開催された組織委員会・運営委員会合同会議において、同委員会の新委員(\*印委員)が承認されました。

なお、新副委員長に日本木材学会々長松本島氏(九大教授)が互選されました。

組織委員会・運営委員会委員は次のとおりです。

## ◎組織委員会

<委員長> 松井光瑞 IUFRO-J 議長  
日本林学会会長  
林業試験場長

<副委員長> 松本島\* 日本木材学会会長  
九州大学教授

<委員> ○平田種男 東京大学教授  
○川名明 東京農工大学教授  
○佐々木功 京都大学教授  
○樋口隆昌 京都大学木材研究所教授

○大隅真一 京都府立大学教授  
○土井恭次 林業試験場調査部長

石田茂雄 北海道大学教授  
千葉宗男 岩手大学教授  
北村昌美 山形大学教授  
薄井宏 宇都宮大学教授  
陣内巖 筑波大学教授

河村肇 東京農業大学教授

片岡寛純 日本大学教授

継田視朋 新潟大学教授

浅田節夫 信州大学教授

岡田幸郎 岐阜大学教授

岩川治 静岡大学教授

鈴木太七 名古屋大学教授

渋谷欣治 三重大学教授

高橋徹 島根大学教授

高村憲男 高知大学教授

西沢正久 九州大学教授

寺下隆喜代 鹿児島大学教授

仲宗根平男 琉球大学教授

○水町浩 東京大学助教授

千葉茂 王子製紙株式会社育種研究所長

諸戸民和 諸戸林業研究所長

半田良一 日本林学会理事

京都大学教授

- 原田 洗 日本林学会総務理事  
林業試験場四国支場長
- 原口 隆 英\* 日本木材学会副会長  
東京農工大学教授
- 岡野 健\* 日本木材学会総務理事  
東京大学助教授
- 宮下 國 弘\* 林業試験場総務部長
- 飯島 保 農業技術研究所企画連絡官
- 阪本 功 関東林木育種場長
- 工藤 俊 夫\* 全国林業試験研究機関協議会会長
- 牛来 文 夫\* 全国林業試験研究機関協議会副会長
- 脇坂 晴 生\* " "
- 塩谷 勉 東京農業大学教授
- 大矢 寿 林業土木コンサルタント理事長
- 神足 勝 浩 国際協力事業団参与
- 若江 則 忠 日本林業協会常務理事
- 中野 秀 章 林業試験場防災部長
- 上飯坂 実 東京大学教授
- 紙野 伸 二 林業試験場経営部長

(注) (1) \*印は新委員 (2) ○印は常任幹事

#### ◎運営委員会

- <委員長> 土井 恭 次 林業試験場調査部長
- <委員> 中野 秀 章 林業試験場防災部長
- 上飯坂 実 東京大学教授
- 紙野 伸 二 林業試験場経営部長
- 杉原 彦 一 京都大学教授
- 赤井 龍 男 京都大学助教授
- 山田 房 男 林業試験場関西支場長
- 高木 勇 樹 林野庁林政課課長補佐
- 下山 晴 平\* 林野庁研究普及課課長補佐
- 船渡 清 人 林野庁業務課課長補佐
- 岩下 陸 林業試験場林産化学第1科長
- 浅川 澄 彦 林業試験場造林科長

(注) \*印は新委員

#### 委員会 の 動 き

#### ★事務局・各部会等

○総務部会打合せ 1月7日

1. 業務の新分担について

2. 実行予算について

○ローカルコーディネーター会議 1月9日

1. コンgressグループの動きについて
2. コ・チニアマンの任命について

○事務局会議 1月14日

1. 学振予算大蔵説明経過について
2. 実行予算検討について

○KICH・JTB・事務局・登録班打合せ 1月19日

1. 登録業務について
2. EXC 関連事項について

○事務局会議 1月29日

1. 実行予算の検討
2. リーゼ IUFRO 本部長等来日について

○EXC コーディネーター会議 2月2日

1. EXC 関係予算について
2. EXC 資料作成進捗状況について

○総務部会打合せ 2月6日

1. 実行予算の検討について
2. 各班業務の相互調整について

○総務部会打合せ 2月10日

1. 実行予算の検討について

○班長会議 2月20日

1. リーゼ IUFRO 本部長およびバイン本部事務局長来日について
2. 実行予算の検討について

○班長会議 2月27日

1. リーゼ IUFRO 本部長等との打合せ事項について

○リーゼ、バイン IUFRO 本部事務局との打合せ

3月3日

○班長会議 3月10日

1. 招待論文・ポスターセッション締切りについて(国内)
2. 同時通訳
3. ハーフディナー

○研究部会打合せ 3月18日

1. 研究集会の構成
2. 会場割当

○研究部会・設営班・プログラム班打合せ 3月23日

1. IUFRO ニュース No. 32 の原稿作成について

○班長会議 4月7日

1. 開・閉会式次第について
2. IUFRO ニュース No. 32 の原稿
3. EXC 関係

○ローカルコーディネーター会議 4月8日

1. 研究集会構成進捗状況



## ○事務局会議 4月13日

1. 登録業務について
2. 予算の執行について

## ○班長会議 4月20日

1. ウィーン理事会(4月26日～5月1日)対応について
2. その他

## ○EXCコーディネーター会議 4月21日

1. EXC各コースの進捗状況
2. 今後の日程

## ○班長会議 5月7日

1. ウィーン理事会報告
2. その他

## ○研究部会打合せ 5月12日

1. KICH現地打合せについて
2. プロシーディングスの編集について

## ○班長会議 5月25日

1. 組織委・運営委合同会議対策について
2. プログラム作成スケジュールについて

## ★組織・運営委員会合同会議

## ○日時 5月27日

PM 2:30～PM 5:00

## ○場所 番町共済会館

## ○出席者

<組織委員会> 松井委員長, 川名, 佐々木, 樋口, 土井, 石田, 北村, 薄井(代), 陣内(代), 片岡, 継田, 浅田, 岡田, 渋谷, 寺下, 仲宗根, 諸戸, 飯島, 阪本, 工藤, 牛来, 脇坂, 塩谷, 大矢, 若江, 中野, 上飯坂, 紙野の各委員

<運営委員会> (土井委員長), (中野), (上飯坂), (紙野), 杉原, 赤井, 山田, 下山, 岩下, 浅川の各委員

<事務局> 難波, 野村, 作宮, 吉田, 斉藤, 浅井, 浅田, 奈須田

## ○議事次第

松井組織委員長のあいさつに引き続き土井事務局長の進行担当で下記議題について報告および審議を行った。

- (1) 組織委員・運営委員の交代(別掲)
- (2) 大会運営準備状況
  - ① 大会準備日程について
  - ② 皇太子両殿下ご臨席について
  - ③ 大会参加者現況
  - ④ 開発途上国等の外国人招待者数

## ⑤ 京都行事について

## (3) 研究集会準備状況

## ① 研究集会の構成

## ② 会場割当について

## (4) EXC準備状況

## (5) 募金について

## (6) その他

## — IUFRO NEWS No. 32 から —

## 研究集会の予定

S 2. 03. 09 ラジアータマツの育種

とき: 1982. 11. 8～19

ところ: ニュージーランド, ロトルアの同国林業試験場。

内容: ラジアータマツの遺伝的改良に関連した諸問題。

問合せ先: A. R. Griffin

CSIRO, Division of Forest Research

P. O. Box 4008, Canberra A. C. T. 2600,

Australia

S 2. 09. 00 大気汚染

とき: 1982. 8. 23～29

ところ: フィンランド, Oulu

内容: 植物にたいする大気汚染の長期的影響および生物学的影響, 被害の実態, 生物指標など。

問合せ先: Mrs. S. Huttunen

Botanical Institute, Oulu Univ.

P. O. Box 191, SF-90101, Oulu 10,

Finland

Division 3

とき: 1982. 6. 27～7. 3

ところ: 西独ミュンヘン, 南独, オーストラリア, スイスにかけての EXC. が予定されている。

問合せ先: H. Löffler

Lehrstuhl für Forstliche Arbeitswissenschaft

Hohenlinderstrasse 5, D-8000 München 80, FRG

P 4. 02. 01 間伐点機械化

とき: 1981. 9. 28～10. 2

ところ: オーストラリア, キャンベラ

内容: オーストラリア, ニュージーランドの間伐林分の経済と技術。

問合せ先: P. T. Brenøe

Skovteknisk Institut, Vester Voldgade 86.

DK-1552, København, Denmark

## 研究グループの新役員、新設など

## Division 1 副部長指名される

R. K. Hermann

School of Forestry, Oregon State Univ.,  
Corvallis, Oregon 97331, U. S. A.

## S 1. 02. 09 新専門研究会長指名される

R. Ballard

Forestry Research Centre

Weyerhaeuser Co., 505 North Pearl St.  
Centralia, WA 98531, U. S. A.

## P 1. 08. 00 “林業のための土地評価” 専門研究会が新設され、暫定研究会長指名される。

C. P. van Goor

Dorschkamp Research Institute for Forestry and Landscape Planning Bosrandweg 20, Wageningen, Netherlands

## S 2. 03. 04 世界の林木遺伝・育種研究者人名録の改訂を計画しているの、新たに登載を希望する方、変更を希望する方は下記に連絡された。

F. T. Ledig

Institute of Forest Genetics  
P. O. Box 245, Berkeley, California  
94701, U. S. A.

## P 2. 02. 02 早成マツ類の短伐期林分の生産性に関心のある研究者は下記に連絡されたい。

H. A. van der Sijde

South African Forestry Research Institute  
P. O. Box 727, Pretoria 0001, Republic  
of South Africa

連絡事項は氏名、住所、主な研究項目など。

## S 6. 08. 00 新副分科会長指名される

D. T. Seal

Northern Research Station  
Roslin, Midlothian, Scotland, U. K.

## 昭和55年度 IUFRO-J 機関代表会議

56. 5. 27, 12:00~14:20, 審判共済会館において20名の機関代表が出席して、つぎのことがらが報告、協議決定された。

## 1. IUFRO-J の昭和55年度中における主な業務。

- (1) 会員の状況: A 会員—884 人 (29 機関 会費納入者), 学生会員—17 名

B 会員—27 機関

## (2) 加盟状況

- イ) 55 年度中に IUFRO-J に加盟した機関、林木育種場 39 名

住友林業株式会社新居浜研究所 2 名

- ロ) IUFRO に加盟が認められた機関

林木育種場

住友林業株式会社新居浜研究所

日本林業技術協会

愛媛大学農学部林学科

## (3) IUFRO-J News の 11 号~14 号の発行。

2. 昭和55年度取支決算報告 (別掲の通り承認)

3. 昭和55年度会計監査報告: 岐阜大岡田監事より経理に問題のない旨報告があり、あわせて現金 (普通預金) の定期への切替え等を図って合理的運用をはかる。特別会計経理の今後の運用計画

4. 昭和56年度予算案: (別掲の通り承認)

5. 役員を選出

会則第 11 条, 12 条により今後2か年間の役員が選出された。

議長 松 井 光 瑞 (林試)

幹事長 土 井 恭 次 (〃)

幹 事 薄 井 宏 (宇都宮大)

〃 平 田 種 男 (東京大)

〃 川 名 明 (東京農工大)

〃 河 村 肇 (東京農大)

〃 片 岡 寛 純 (日本大)

〃 陣 内 巖 (筑波大)

〃 岩 川 治 (静岡大)

〃 鈴 木 太 七 (名古屋大)

〃 諸 戸 民 和 (諸戸林業研)

監 事 岡 田 幸 郎 (岐阜大)

〃 西 沢 正 久 (九州大)

主 事 雨 倉 朝 三 (林試)

6. IUFRO 日本代表 (International Council) の選出 IUFRO 会則第 6 条による日本代表および代理代表の選出について協議し、1~2 の候補があげられたが、この選出については接洽を含め議長に一任された。

## 7. その他

特別会計経理の今後の運用については、当面第 17 回大会の対応、各 Div. 等で開催する研究会参加のための経済的援助等が考えられるが具体的な運用については協議する。

以上のとおり予定の議題を終了して、機関代表会議を終った。

昭和55年度決算  
一般会計経理  
収入の部

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	784,142 円	784,142 円	
会 費			53年度分 13,000円 (13人) 54年度分 66,000 (66人) " 60,000 B会員8機関
53, 54年度分	66,000	139,000	
55年度分			
A 会員費	900,000	905,500	869,000円 (869人) 8,500 (学生17人) 28,000 (諸戸林)
B 会員費	100,000	152,000	27 機関
雑 収 入	40,000	15,297	利 息
計	1,890,142	1,995,939	

## 支出の部

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情報活動費	525,000 円	0 円	
会 議 費	85,000	29,230	4/20 番町会館 IUFRO-J 総会 昼食代 20,000 円 IUFRO 理事会出席打合せ、 会費 9,230 円
予 備 費	80,142	1,370	
日本大会積立金	1,200,000	1,200,000	請求書、領収書用紙代 670 円 払込手数料 700 円 特別会計へ払出し
計	1,890,142	1,230,600	

残 額: 1,995,939 - 1,230,600 = 765,339 円 (次年度へ)

昭和55年度決算  
特別会計経理

科 目	収入額	支出額	残 額	備 考
前年度繰越金	6,336,360円	円	円	
55年度中の寄付金	832,000			農工大久保隆文氏 2,000円 林試真部辰夫氏 430,000円 京大林産学科 90,000円 林試玉利長三郎氏 10,000円 土井財団 300,000円
一般会計(経常費)より繰入	1,200,000			一般会計より繰入
利 息	326,781			定期預金分 309,390円 普通預金分 17,391円
組織委員会払出		4,500,000		前年度分 1,500円 払出を含め計 6,000,000円 払出し
計	8,695,141	4,500,000	4,195,141	(保有状態 {定期預金 3,345,750円} 普通預金 849,391円)

## 昭和56年度予算案

## 収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	765,339円	
会 費		
55年度分	36,000	36人(名大分)
56年度(A会員)	900,000	900人×1,000円
(B会員)	150,000	30口×5,000円
雑収入	20,000	利息ほか
合 計	1,871,339	

## 支出の部

科 目	金 額	備 考
情報活動費	660,000円	J-News 150円×1,000部×4回=600,000円 郵送料 500円×4回×30ヶ=60,000円
会 議 費	90,000	会場借料 15,000円×2回=30,000円 昼食代 2,000円×30人=60,000円 2,000円×15人=30,000円
予 備 費	121,339	通信費, 払込手数料, その他
特別会計へ	1,000,000	
合 計	1,871,339	

IUFRO-J NEWS No. 15

昭和56年6月20日

編集: 国際林業研究機関連合-日本委員会事務局

発行: 農林水産省林業試験場